資料 3－5

久留米市子どもの生活実態調査（平成２９年度）の結果

１　目的

久留米市の子どもの貧困対策の推進にあたり、子どもやその保護者の生活実態を把握し、適切な支援につなげていくための基礎資料を得ることを目的にアンケート調査を実施するものです。

２　調査概要

（１）調査対象者

①市内の小学校に通う５年生の児童とその保護者（2,849 世帯）

②市内の中学校に通う２年生の生徒とその保護者（2,492 世帯）

計 5,341 世帯　【回収率 42.5%】

（２）調査期間

平成２９年９月１４日～２９日

（３）調査方法

学校配布・郵送改修

３　調査結果の概要

（１）　生活困難世帯の割合

生活困難層		困窮層＋周辺層	22.1%
	困窮層	①②③のうち、２つ以上の要素に該当	7.5%
	周辺層	①②③のうち、いずれか１つの要素に該当	14.6%
一般層		いずれの要素にも該当しない	77.9%

【生活困難世帯の定義】

①低所得＝国の貧困線（122 万円）を下回る世帯

②家計のひっ迫＝経済的な理由で「食費を切りつめた」「新しい衣服や靴を買うのを減らした」などの経験が６項目以上該当する世帯

③子どもの体験や所有物の欠如

＝経済的な理由で子どもを「旅行やレジャーに連れていくことができなかった」「学習塾や習い事に通わせることができなかった」などの経験が３項目以上該当する世帯

（２）　世帯構成の状況

困窮層、周辺層では、一般層と比較して「ふたり親世帯」の割合が低く、「母子世帯」の割合が高いです。特に困窮層では「母子世帯」が約 4 割となっています。

区分		ふたり親の世帯	ひとり親の世帯		その他の世帯
			母子	父子	
全体		79.3%	11.3%	1.4%	6.6%
生活困難層	困窮層	54.7%	38.2%	1.8%	4.1%
	周辺層	66.3%	23.8%	1.2%	7.2%
一般層		84.1%	6.3%	1.4%	6.7%

（３）子どもの状況

①健康・食の状況

生活困難度が高い層ほど、未治療の虫歯があっても治療の予定がない割合が高いです。また、生活困難度が高い世帯ほど孤食の割合が高くなっています。

項目	困窮層	周辺層	一般層
虫歯（未治療）があるが、治療予定がない	30.4%	25.0%	18.3%
ひとりでご飯を食べることが「よくある」「ときどきある」	37.7%	28.4%	24.1%

②子どもの自己肯定感

生活困難度が高いほど、自分に対する自信を持つことができていません。

項目	困窮層	周辺層	一般層
自分に自信がある（小学校５年生）	51.8%	67.5%	70.9%
自分に自信がある（中学校２年生）	41.5%	40.7%	53.1%

③子どもの困っていること

生活困難度が高いほど、嫌なことや困っていることが「ある」とする回答の割合が高く、「学校や勉強のこと」でほかの層に比べ困っている割合が高いです。

項目	困窮層	周辺層	一般層
嫌なことや困っていることがある	52.1%	43.5%	41.8%
学校や勉強のこと	27.5%	21.5%	20.1%

（４）保護者の状況

生活困難度が高いほど、困りごとがあっても相談しない割合が高く、その理由として「信頼できる人がいない」と回答する割合が高くなっています。

①困っていることについての相談者

項目	困窮層	周辺層	一般層
相談しない（しなかった）	22.9%	18.7%	11.0%

②相談相手がいない、または相談しない理由

項目	困窮層	周辺層	一般層
信頼できる人がいないから	28.8%	28.6%	11.9%

（５）制度サービスの利用

生活困難度が高いほど、「子どもの学習支援」や「住宅に関する支援」を必要又は重要だと考える割合が高くなっています。

項目	困窮層	周辺層	一般層
子どもの学習支援	67.6%	47.6%	38.0%
住宅に関する支援（住宅探し、住宅費の軽減）	47.6%	24.1%	11.1%

【調査結果 HP】